

※「補充・発展指導計画」欄の表記について、◎発展的指導、●補充的指導、○発展補充共通の指導

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの定着率は約90%。長音・促音・撥音・助詞(は、へ、を)の習得には個人差がある。 音読は、声の大きさを意識して意欲的に取り組める。 読み聞かせはどの子も集中できるが、一人での読書には積極的に取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なひらがなとその文字を使った言葉を繰り返し練習して覚え、100%の定着をめざす。 特殊音節の使い方を掲示し、意識させる。 週に一回の図書時間の他、家庭での親子読書を奨励し、本にふれる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「あのねノート」を活用し、日記や作文を家庭学習に取り入れ、正しい表記の仕方を身に付けさせる。 ●音読カードを活用し、音読に意欲的に取り組ませる。(夏休みの課題) ○図書館司書と共におすすめの本リストを作成し、紹介する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストの結果から、1年生の漢字は概ね身に付いていることが分かった。 2年生の漢字は、新出漢字を1日2文字ずつノートに書いて学習しようとしたが、まとめの結果から90点以上取れている児童は6～7割ほどだったので十分とは言えない。 説明文では、事柄の順序を考えて読み取る力に課題がある。理解しながら読み進める力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月から9月まで漢字ドリルをもう一度やり直し、以降も反復練習を行う。テスト直しを必ずさせる。 漢字テストは範囲を予告し家庭でも対策を取るよう呼びかける。 「話を聞き取る」力をつけるために国語の授業を中心に、よく聞いてメモを取ることを習慣づける。 説明文を読み取る力がつくように、指示語や接続詞に線を引いて読むよう読み方の決まりを指導し、徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎漢字や主語述語を意識した文作りをさせる。漢字を使った短文練習を毎日させて、書くことに慣れさせる。 ●毎日漢字10問テストを実施する。同じ問題を5日間連続で続け、確実に覚えさせる。25問まとめテストでは9割の児童が90点以上とることを目指す。 ●話をじっくり聞く力がつくように、友達の話聞いて質問する力をつけさせる。 ○読書タイムや図書の時間におすすめの本を紹介し、読書カードに読んだ本の記録を付ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の読み取りの際、「まず、つぎに、そして、最後に」などの順序を表す言葉に着目させることが不十分だった。 話を聞き取る時の、メモの取り方が指導不足だった。 毎週末、作文の家庭学習に取り組んだことで、書く力がついた。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字は、書くテストだけでなく、読みのテストも行い、8割以上の児童が90点以上とれるよう繰り返し指導する。 説明文の学習では、「まず、つぎに、そして、最後に」などの順序を表す言葉や指示語、中心となる言葉に着目して、読み取らせる。 読書活動の充実のため読む時間を確保し、読書カードに読んだ本を記録して、読書を習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎他教科で、インタビューしてメモを取る活動を意図的に取り入れる。 ●文章の読み取りの練習問題を継続して行う。 ○「そして、しかし、だが」などの接続語を仲間分けして教室に掲示し、いつでも確認できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストを繰り返し行い、漢字を書く力はついてきたが、漢字を読む力は不十分である。 物語文や説明文を読み取る力が不十分ある。 週に一回作文を書く宿題に取り組み、書き方を指導したり、よい文章を紹介したりしている。書く力は向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を書くテストだけでなく、読みのテストも行い、8割以上の児童が90点以上とれるよう繰り返し指導する。定着していない漢字はミニプリントで繰り返し復習させる。 文章を読む学習では、語句の意味や文法を確認しながら授業を進める。 読書活動を習慣化させるために、隙間時間等で自然に読書することのできる環境づくりをする。読書途中の本がいつも机の中にあるようにマイブックを奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎都道府県名を漢字で書けるように、毎週1つの地方を位置とともに覚えさせる。 ●ローマ字の読み書きに慣れるように、繰り返しプリント等に取り組ませる。 ○朝読書時間は、本を事前に決めておき、しっかり本を読む時間を確保する。本を選べない児童には本を紹介する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に関しては、小テストを使って補足練習を行ってきたが2割の児童は十分な結果が得られなかった。 説明文の読み取りに関しては、考える手順を明示し、時間をかけて指導した。物語では、登場人物の関わりや構成を丁寧に指導したが、心情の変化については十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が漢字テストで90点以上を取れるよう、テスト予定日を示して見直しをもって学習に取り組めるようにする。 接続語、指示語、文末表現に注意をさせる。また、要約をする、見出しをつける活動等を取り入れ、読み取る力をさらに伸ばす。 作文指導においては、教材文の優れた構成を学ばせると共に、構成を指定して短作文を書かせる活動などを授業に取り入れて、「書く」活動に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎テストが早く終わった場合等に、漢字ミニテストを行う。漢字に対する興味を高めるために、魚偏の漢字や木偏の漢字、虫偏の漢字などのクイズや熟字訓クイズのように、出題の工夫をする。 ●漢字テスト直しを宿題とし、十分習得できるようにする。 ○常に手元にマイブックを置くとともに、読書タイムや学習の隙間時間など本を読む機会を増やし、静かにじっくりと読む習慣をつける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きの指導が不十分で、定着率や活用の能力に差がある。書くことに関する指導が十分でなかった。 記述式問題に解答できない児童が多く、文を書く経験や語彙の不足が原因と思われる。 長文読解に慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストでは8割以上が90点、苦手な児童も60点以上を目指して繰り返し練習させ、再テストで確認する。 宿題での熟語、短文作りで辞書を活用させ、熟語の意味を理解し習った漢字を活用できるようにさせる。 授業の中で考えや感想を書かせ、交流や紹介の場で活用させる。また、構成や字数、内容の指定に沿った作文を書かせ、表現方法を工夫させる。 説明文の読み取りを通して、文章の構成を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎朝学習や授業、宿題などで6年間の漢字を復習し、熟語や短文作りをする。慣用句やことわざ、同音同訓異義語についてもプリントなどで学習する。 ●語彙を増やし、表現力を身に付けさせるために、1行日記や季節ごとの俳句作りに取り組ませる。 ○読書タイムや学習の隙間時間などで本を読む機会を増やし、いつも手元にマイブックを置き、静かにじっくりと読む習慣をつける。

※「補充・発展指導計画」欄の表記について、◎発展的指導、●補充的指導、○発展補充共通の指導

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取ることが苦手である。どの資料を見ればよいか理解できていない。 地図を読み取ることが苦手である。授業では地図記号、東西南北など知識の習得にとどまり、活用の場面が不足したことが原因と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心を高める資料を提示する。ICT教材を活用する。 授業で資料を活用する場面を増やす。どの資料のどの部分を見れば必要な情報が読みとれるか全体で確認する。 授業始めに、地図記号、東西南北、土地の高低差などの各要素について地図を読む練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎総合的な学習の時間や他教科の学習とも関連させ、資料を読み取る力を伸ばす。 ○調べ学習の際に、図鑑、新聞、インターネットなど様々な教材・教具を活用する。 ●東京都の中の北区の位置を覚える。
4年	<ul style="list-style-type: none"> お店や工場、消防署など、実際に見学をして学ぶことができ、働く人々の努力や工夫などについて実感しながら学ぶことができた。 資料を使った学習では、必要な情報を読み取る力が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用した学習を多く取り入れ、資料の読み取り方を理解、習熟させる。 実際に見ることのできないことに関しては、ICT教材を活用する。 意欲的に課題に取り組めるよう、児童主体で問題作りをし、資料活用しやすい場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎他教科や総合的な学習の時間などの学習に関連させて、資料を活用する能力を伸ばす。 ●都道府県名と位置を覚えるため、国語の漢字学習と関連させ、毎週1つの地方を取り上げ覚えさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集を使った授業と、インターネットや図書を使った個別の調べ学習を、学習内容に応じて取り入れた。しかし、意欲や資質能力に個人差があり、同じ学習内容でも習得事項に差が出て、調べる情報量やまとめの内容には大きな差が表れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味・関心を高めるために、課題づくりや資料の開発・提示方法などを工夫し、学習がより深まり定着するようにする。 表やグラフ、写真や画像などから読み取ったことをお互いに交流し合うことで、友達のよい読み取りを、自分の読み取りに取り入れられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎資料から読み取るべき最低限度の情報について、しっかりと押さえながら授業を進める。 ◎教科書の単元から発展した内容の写真やグラフ、図表などを提示することで、興味・関心を高める。 ○「地図タイム」として、授業冒頭の3分間を使い、期間を決めて県名・県庁所在地名を漢字で正確に書けるように取り組ませる。 ●日本の周りの国の名前、世界の大陸・海洋の名前を覚えさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国土の位置や周りの国々、大陸や海洋の知識を定着させる指導が十分でなかった。 資料から読み取ったことをもとに、自分の考えをまとめる活動が不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに、児童が興味関心をもって調べたいと思う資料を精査して提示し、その資料をもとに、どのように指導するかを考えて、授業を組み立てる。 日常的に、児童が資料からわかったことをまとめ、自分の考えを書く時間を設定する。 授業の始めの時間を「地図タイム」とし、ミニ知識が身に付くような、クイズ、パズルなどの取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎年表を活用して時代の流れを押さえるとともに、歴史上のエピソードや本を紹介し、興味関心を高める。 ●朝学習などでニュースや新聞の話題を紹介し、時事問題への関心を高めるとともに、意見を書いたり交流したりする機会を設ける。 ○よみとり、自分の考えを表現する力をのばすため、ノートの取り方の良い例を掲示するなどの取り組みを行う。

※「補充・発展指導計画」欄の表記について、◎発展的指導、●補充的指導、○発展補充共通の指導

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 手指や具体物を操作しないと、たし算・ひき算(繰り上がり・下がりなし)を正しく計算できない児童が約20%いる。 文章問題の意味を理解できず、正しく立式できない児童が約30%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを利用し計算カードを繰り返し練習する。 文章問題はキーワードになる言葉(あわせて、ちがいは)に着目させて考えるようにする。また、「わかっていること」「きかれていること」に分けて、下線を引く。 「3と7で10」「10は1と9」などを暗記しながら、10の合成・分解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎計算カードを使ってゲーム化して計算練習をする。 ●家庭学習の習慣化を図り、反復練習を大切にする。 ●学習課題の類似問題に取り組み、理解を定着させる。 ○日常的に、具体物(あめ玉10個など)や数字カードを使って計算する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算になると、間違えることが多い。数の概念を理解させる必要がある。 「長さ・かさ」や「かたち」では、実感を伴った理解に課題がある。 文章問題を理解し、適切な立式を考えられるよう指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを活用し、過去の学習単元(特に図形問題)や既習内容の反復練習をさせ確実な定着を図る。 文章問題では、絵や図、言葉、式など用いて考えることに慣れさせる。大事なこと(「わかっていること」「きかれていること」)には下線を引く、ヒントカードを用いる等をさせ、自立解決を促す。 授業では、具体物を活用したり、ブロックや道具を操作したりすることによって、問題の場面を全員がイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎練習問題を解く段階では習熟の高い児童に発展的なプリントを準備する。 ●たし算やひき算でつまずきのある児童には、学力パワーアップ講師や学級経営支援員が補充的指導をする。 ○かけ算九九を全員に修得させるため、九九検定を実施する。 ○ケアレスミスをしないうに見直しの習慣を身に付けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 問題文が長いと最後まで正しく読めずにあきらめたり、読み間違えたりする児童が多い。文章題や発展的な問題に取り組む経験が少なかった。 習熟度別授業の内容充実が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムに補充プリントに取り組ませる。 文章題では求めること、数値などに下線を引き題意を正確に捉えさせる。 長い文章問題や、不必要な数値が入った問題に取り組ませる。 長さ・かさの量感を獲得させるため、具体物を操作する体験の場を多く設ける。 家庭学習を習慣化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎発展的な問題にも取り組みせ、活用力を伸ばす。 ◎長さ・かさ・時刻の補充プリントに継続的に取り組ませる。 ●下位層のクラスでは、ブロックなどの半具体物を操作して問題を解決させる。 ●九九未習熟の児童には、習得するまで、家庭学習でくりかえし暗唱に取り組ませる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 計算の基礎・基本はほぼ身につけているが、筆算、九九などにミスが見られる。 文章題を読み取り、図などに表す練習を繰り返し力をつけてきたが、その図を使って立式する力がまだ十分ではない。 時刻は読めるが、時間については理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを使って、苦手な内容を中心に繰り返し取り組む。 文章題の読み取りの際には、クラス全体で「分かっていること」「求めること」を確認(下線を引く)してから自力解決に取り組む。発表の際には、それぞれの考えを確認し合う。 じっくり見直す習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎算数の時間の習熟度別学習を活かし、児童に合った基礎的または発展的問題に取り組む。 ●分度器、三角定規・コンパスの使い方に慣れるように練習に取り組む。 ●九九や、九九の逆算であるわり算が、スムーズにできるように繰り返し取り組む。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の指導法の良さが現れているようで、中・上位層の指導は、効果を上げている。しかし、下位層クラスのでは習熟が十分とは言えない。 四則計算の技能などにおいて、下位層の底上げが十分とは言えない。 文章問題において数量関係を十分に把握して立式する力も全ての児童には付けられているとはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを使って、苦手な内容を中心に繰り返し取り組む。 文章題で数量の関係が捉えられるように、数直線や簡易図などを用いて理解できるようにしていく。 小数点を用いた計算について、授業および宿題などで習熟を図っていく。 宿題での計算ドリルの使用に際して、問題を解いた後丸付けをして間違いを直すまでに行わせ、家庭学習の質の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎数量の関係を捉え易くするために、数直線や簡易図などを提示して、分かり易い手立てに気付くようにする。 ●習熟度別の指導で、下位層の人数を少なくするなどして丁寧に指導に当たれるようにする。 ○ワークテストなどで誤った問題について、友達や教師から正しい考え方・計算法を学べる時間を作る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 4教科中一番正答率が高く、平均を上回るものが多く、習熟度別指導の効果が出ている。 下位層の児童の分数の計算の正答率が低く、分数の概念や通分、約分の理解が不十分なところがある。 文章題を自力解決する時間の確保が十分でなく、苦手意識をもつ児童がまだ半数位いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムや宿題などで基本的計算や混合計算を行い、計算力の向上を目指す。分数の四則計算はミニプリントやドリルを使って繰り返し練習する。 文章題で数量の関係が捉えられるように、数直線や簡易図などを用いて理解できるようにしていく。 授業でなるべく多様な文章題を解くようにし、数直線の書き方を確認して数の関係を押さえて立式させ、考えを互いに説明し合う活動を授業で多く取り入れる。 じっくりコースの児童には、ヒントカードを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎進んでいる児童には、発展的な課題を準備する。 ○算数タイムで、既習学習事項の基本を、復習問題に取り組ませることで習熟させる。また、習熟度に応じた課題の作成を行う。 ○計算習熟のため、授業の始めの時間などを使って習熟度に合わせた計算練習を行う。

※「補充・発展指導計画」欄の表記について、◎発展的指導、●補充的指導、○発展補充共通の指導

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な植物や昆虫に興味関心が高く、意欲的に飼育や観察をすることができた。 観察カードに観察して気付いたことを自分のことばでまとめるのが苦手な児童もいたため、観察する時の視点を明らかにすることが必要であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物や昆虫を観察する時には、「色・形・大きさ」や「頭・むね・はら」など観察する視点を明らかにして観察カードを書くように指導する。 ICT教材を使い、観察した時には気付かなかった点を補充する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎デジタル教材で、教科書に類似する生き物や事象を取り上げ、学びを広げる。 ○観察や実験の予想を立てさせて、考えを広げたり深めたりさせる。 ○理科支援員と連携し、児童の興味関心が高められるような実験、観察を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 植物の栽培や観察が十分できず、植物の育ち方や世話の仕方についての理解が不足していた。 科学的な思考、表現する力を問う問題の正答率は高かったが、2名が正答率10%以下であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物を実際に観察するだけでなく、ICT教材も活用し、知識として共有させる。 実験の際には、問題作りを子供たちが主体となってい、予想を立ててから実験に取り組むようにする。 実験は実際に自分たちの手で行わせ、実験後の考察は自分の言葉で書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎実験が楽しかっただけに終わらないよう、知識として定着するようにプリント等で補う。 ●観察や実験に困っている児童には、観察や実験の手立てや、観察や実験の際の視点をしっかりと確認する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 「条件を一つだけ変えて比較する実験」を考案する授業を行い、児童は興味をもって取り組んだ。 5年生になってから学習した単元、「天気の変化」「植物の発芽と成長」「魚のたんじょう」は、予想、考察の指導が徹底できなかつたところもあり、得点率が低かつた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や自分が探究しようとする事柄を調べるための観察・実験に、児童が興味や問題意識をもって取組める授業作りをする。 実験方法を自ら考えさせるために、「何を」「何のために」探究するのか明確な目的意識をもたせる。 実験結果からの考察と結論付けへの思考の仕方を、友達との教え合いや、優れた考察などを参考にして身に付けさせる。 実際に観察できなかつたものは、ICT教材を活用して、定着を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達のよい予想や考察の記述を「はなまるノート」として提示して、互いに深く学び合わせる。 ○発展的な事象や知識の提示を単元の始めにすることにより、単元内容への興味・関心を高める。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 「天気の変化」や「植物の発芽と成長」など、一定の期間、観察を継続する必要がある単元では内容の理解が十分でなかつた。 実験用具や顕微鏡の操作の指導が十分でなかつたので、顕微鏡の使い方を十分に理解できていなかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠のある予想を立てたり、観察実験の結果から考察したり、結論を自分の言葉でまとめられたりできるようにするために、友達の予想、考察の優れたポイントを示すなどして、高め合っていけるようにする。分かったことを確認し、まとめをていねいに行う。プリントなどで内容の理解の向上を目指す。 実際に観察できなかつたものは、ICT教材を活用して、定着を確実にする。 実験器具の正しい使い方の説明や演示をし、再度教科書やノートを使って確認し全員が操作できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎観察や実験を行っていく中で、身の回りの自然に目を向けさせるようにしていき、知識を定着させるとともに、新たな疑問の発見や、科学的な事象に対して考察する姿勢を高めていけるようにする。 ○教室に理科関係の本や図鑑を増やし、読む機会を作る。